農作物の生育状況、今後の見通しと対策（2月）

鳥取県農業気象協議会
（鳥取県農業振興局経営支援課 農業普及推進室 まとめ）
令和8年2月15日　現在

作物名		生育状況	今後の見通しと対策
作物	麦	・11月上旬が好天であったため、前作の事情で播種が遅れたほ場以外は、産地全体で概ね適期播種となった。12月の状況では幼穂形成と伸長が早く生育量も多かったが、1～2月の積雪によって生育は停滞している。なお、現時点で目立った病害虫の発生は確認されていない。 ・農試ほ場における11月上旬播種の大麦「はるさやか」は、1月の積雪前時点で幼穂長2～3mm程度で下位節間が5mm程度となっており、平年よりやや早い状況であったが、一時的な寒波・積雪に遭遇しており、今後の生育に注視する必要がある。 ・穂肥は、2月下旬以降の気温が安定した時期に施用することを呼びかけている。 ・小麦等も概ね生育が順調で、畑連年ほ場で黄斑病の発生が懸念されるが、現時点で目立った病害の発生はなく、生育は順調である。	・定期的に排水溝を確認し、必要に応じて排水溝の手直しを行うなどして滞水が見られる場合は速やかに排水を促す。 ・第一回穂肥の施用時期が早いと精麦率が低下するので、気温の安定を待って適期に施用する。 ・雑草の発生が多い場合は、麦の生育や収穫に支障が生じる場合があるので、時期を失しないように茎葉処理剤による除草対策を行う。 **【気温が高く過繁茂傾向となる場合】** ・大麦網斑病の発生に注意し、蔓延する前に防除を行う。 **【降雪が続く場合】** ・雪解け後は排水溝を点検し、明きょと排水溝を連結する等ほ場の排水に努める。 ・積雪期間が長期にわたった場合は、融雪資材（育苗培土等）の散布によって融雪を促し、雪解け後にできるだけ早く窒素肥料を追肥することで生育の回復に努める。
果樹	ナシ	・せん定作業が行われている。 ・1月下旬から2月上旬にかけて降雪が続いた。積雪は果樹棚や樹体に被害を及ぼす程ではないが、果樹園に入れず、作業が遅れている地域がある。	・引き続き雪害に注意する。 ・積雪が多い果樹園では、融雪剤の散布等により雪解けを促進し、園内で作業ができるようにする。 ・3月に入って気温が上がると生育が進むので、ハーベストオイル散布のタイミングを逃さないよう、せん定を終わらせて枝を片づける。
	カキ	・せん定作業が行われている。 ・1月下旬から2月上旬にかけて降雪が続いた。積雪は果樹棚や樹体に被害を及ぼす程ではないが、果樹園に入れず、作業が遅れている地域がある。	・引き続き雪害に注意する。 ・積雪が多い果樹園では、融雪剤の散布等により雪解けを促進し、園内で作業ができるようにする。 ・カイガラムシが多い園では、粗皮の下が越冬場所になるので削る。バークストリッパーによる粗皮削りは3年に1回の目安で行う。
	ブドウ	・2月8日の降雪で連棟ハウス4aが倒壊する被害が発生した。 ・中部砂丘地では、ハウスのビニール被覆の時期になり、降雪の心配がなくなるのを待っている。	・引き続き雪害に注意する。 ・ハウスのにビール被覆にあたっては、気象情報を確認し、降雪等に十分注意して行う。
野菜	白ねぎ	**【春ねぎ】** ・2月8日～9日の降雪により葉折れが発生し、4月どり以降は土寄せ前のため倒伏が多い。3月どりは、新葉展開前の出荷となるため秀品率が低下する可能性が高い。なお、4月どり以降は徐々に回復する見込み。 **【夏ねぎ】** ・トンネル、無トンネル作型ともに定植を終えている。2月8日～9日の降雪により、トンネル作型では大きな被害は見られないが、無トンネル作型では雪の重みで葉折れが発生し、今後雪解け水による湿害や生育遅れが懸念される。 ・8～9月どり作型は育苗中で生育は順調。 **【秋冬ねぎ】** ・2月8日～9日の降雪により、葉折れが発生している。出荷は雪害規格での出荷と加工用の出荷が増えている。 ・雪害に備えて倒伏、葉折れ防止にバンドを設置している場所では降雪の被害は少ない。 ・収穫は7～8割程度終了しているが、遅れ気味のほ場でも散見される。	**【春ねぎ】** ・3月どり作型では雪害により品質低下と等級低下が懸念される。雪害規格の適用について出荷前に検討される見込み。 **【夏ねぎ】** ・12月の気温が高く、生育が進んでいることから、例年に比べて抽苔率が高くなることが予想されるため、収穫遅れとならないよう周知する。 **【秋冬ねぎ】** ・収穫が遅れているものは3月まで収穫が続く見込み。 ・育苗ハウスが高温にならないよう温度管理やかん水不足に注意する。
	ブロッコリー	**【秋冬どり】** ・低温と2月8日～9日の 降雪により収穫作業が停滞している。 **【初夏どり】** ・育苗中で順調に生育している。	**【秋冬どり】** ・積雪の影響で、凍害の発生が懸念される。 **【初夏どり】** ・2月末頃から定植開始予定。
	トマト（促成）	・3段目の出蕾中で、昨年と同等の生育となっている。 ・一部でコナジラミの発生や、カリ欠乏による葉先枯れが発生している。	・ハウスの保温に努める一方、湿度が高くなりすぎないよう適切に管理する。 ・コナジラミ、灰色かび病の防除を徹底する。
	にんじん	・積雪の影響で、手作業での収穫となり、3月から4月まで収穫が続く見込み。 ・一部ほ場で腐れが多発している。	
	らっきょう	**＜東部＞** ・1月23日の生育調査の結果、平年に比べて球重は軽く、分球数は少なく、生育は遅れている。 **＜中部＞** ・1月～2月にかけての度重なる降雪、積雪の影響で生育は平年に比べて遅れている。 ・白色疫病および春腐れ病の発生が見られる。	・融雪後の白色疫病の防除を徹底する。 ・生育の悪い圃場では追肥を検討する。
	イチゴ	・第2果房から第3果房の収穫中で、平年と比較して2週間程度、昨年より1週間程度遅れている。 ・低温、日照不足の影響で着色の悪いほ場がある。また、加温をしていないほ場では気温、地温が低下し、生育が遅れている。 ・一部で灰色かび病、ハダニ、アブラムシの発生が見れ、防除が行われている。	・積雪でハウスサイドの換気のできないほ場では出入口を開けるなど温度管理に注意するとともに、早急にハウスサイドの除雪を行う。 ・2月下旬以降、気温が上昇するとハダニ、アブラムシの発生が助長されるため、発生状況に注意し、初期の防除に努める。 ・ハウス内の温度が高くならないように適切な温度管理に努めるとともに、かん水不足に注意する。
花き	シンテッポウユリ	**【盆作型】** **＜東部地区＞** ・温床があるところでは、1月30日頃の播種となった。品種は9割が‘オーガスタEX’、残り1割‘凛花ExⅡ’、’優雅中生’ **＜中部地区＞** ・12月下旬に播種が行われ、2戸が育苗委託、1戸が自家育苗。やや葉色が薄いが概ね順調に生育。	―
	ストック	**＜東部地区（彼岸作型）＞** ・9月10日播種の出荷が始まっている。9月20日播種も開花し始めている。 **＜中部地区＞** ・一部凍害被害発生している。 ・出荷が終盤に入っているが、最終出荷が3月になる見込み。 ・大栄地区では、現時点、出荷はスタンダード系（SD）で120万本（計画比87%）、スプレー系（SP）で59万本（同86%）で、1月まで遅れ気味で進み、1月末～2月上旬に出荷ピークを向かえた。現在の単価はSD約40円、SP約70円で、安値傾向となっている。 **＜西部地区＞** ・大山名和地区では大雪による目立った凍害等は見られていない。現在収穫は、全体の約6割程度。	**＜東部地区＞** ・今後、気温が上昇することから開花が進むと考えられ、出荷は2月下旬以降から本格化する見込み。 **＜中西部＞** ・灰色かび病や菌核病に注意し、換気を行う。 ・出荷は減少傾向だが、3月まで出荷が続く見込み。
飼料	イタリアンライグラス	**＜全県下＞** ・2月上旬の降雪により、積雪下で生育が確認できない状況。	・標高が高い地区においては、今後の積雪量によって、雪腐れによる減収が懸念される。

【農作業安全について】
春の農繁期の前に圃場や進入路を確認し、修繕や危険箇所への目印設置等、事故のリスクを減らしましょう。